

標茶高校が行うクルーズ船へのおもてなしが 土木学会地域活動賞を受賞

釧路開発建設部 築港課

釧路港は、新釧路川を挟み西港区と東港区で構成された重要港湾であり、日本有数の食料供給基地を背後に抱え、農畜産業や紙・パルプを中心とした基幹産業を支える東北海道地域の物流拠点として重要な役割を果たしています。また、「釧路湿原国立公園」、「阿寒摩周国立公園」、世界自然遺産である「知床」等の豊富な観光資源を背後に有し、海産物や農産物等の新鮮な食材の宝庫であり、観光地としてのポテンシャルも高いことから、釧路港には多くのクルーズ船が寄港しています。クルーズ船が主に利用する東港区は、釧路フィッシャーマンズワーフ(MOO)、全天候型緑地(EGG)、釧路市観光国際交流センター、北海道立釧路芸術館等、国際・国内交流機能に加え、平成23年の旅客船ターミナルの供用に伴い、クルーズ船の寄航数が増え、市民団体や高校生によるクルーズ船へのお

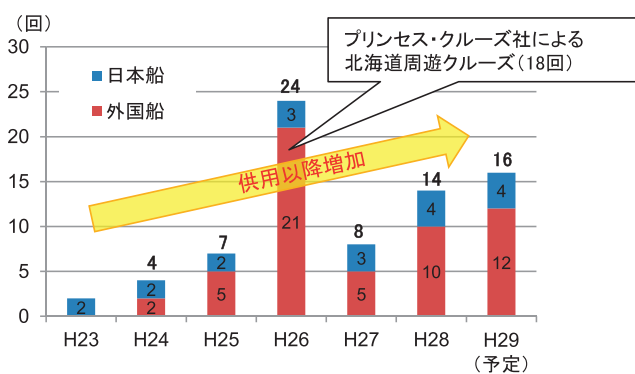
もてなし活動やイベントの開催など、賑わい空間が形成されています。

そのような中で、釧路港に寄港するクルーズ船の外国人観光客へ英語による道案内など、おもてなし活動を行っている北海道標茶高等学校に、土木学会北海道支部から地域活動賞が贈られました。

北海道標茶高等学校は、課外活動の一環として、釧路港の旅客船ターミナルにクルーズ船で訪れる外国人観光客へのおもてなし活動を平成27年度から行っています。岸壁上において英語で道案内をするほか、全天候型緑地(EGG)において書道、着物の着付などの日本文化を紹介するおもてなしにも英語で対応しており、外国人観光客にも大変好評です。これらの活動が、土木構造物を通じて地域の発展や貢献に寄与されていると土木学会北海道支部から評価されました。



釧路港東港区



釧路港クルーズ船寄航回数



受賞状況



書道体験の様子